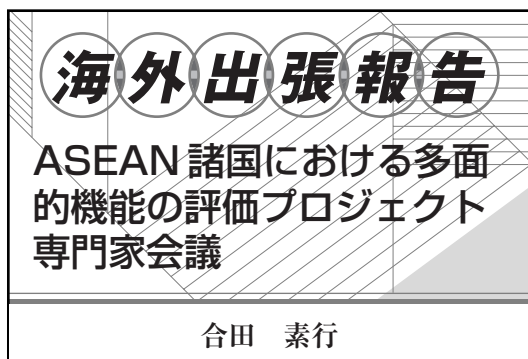




5年前から始まったASEAN多面的機能プロジェクトは、いよいよ2期目もあと1年となり、ワーキンググループ会合も第5回を迎えることとなり、筆者にとっては3回目の出席となる。今回はフィリピンが当番国となってマニラでの開催（6月27日～30日）である。会議出席の印象は、プロジェクト当初から関わってその進展を見守ってきた立場からすると、この間のプロジェクトの進捗ぶりは、オーバーに言えば感動的でした。

会議はいつものように、各国のプロジェクト進捗の途中経過を、それぞれ報告し合い、質疑を行うことが中心となるが、今回はOECDからの報告を冒頭にいただいたことが目新しいことであった。

多面的機能は、このプロジェクトが始まった5年前から見ると、言葉としても、概念としても世界で受け入れられるようになってきた。それは、WTOを通して貿易自由化の議論の中で、わが国が世界に向けて執拗に主張してきた成果であるが、先進国については、OECDでの議論の深まりや数度に及ぶ検討結果の報告書の刊行など、理解の浸透と深化が

目に見える形であったものの、途上国については、今一つ関心の高まりは十分でなかった。ASEANにおけるプロジェクトと並行して、FAOにおいても、同じくわが国の拠出金によるRole of Agricultureと呼ばれるプロジェクトが、同時期に進められているが、両プロジェクトの連携にまでは至らなかったことに幾分かは現れているように、途上国における多面的機能の議論の理解は、思うようには進まなかったのである。

ところが、今回の会議では、プロジェクト作業を別として、ブルネイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムでは、多面的機能に関するシンポジウムが開催されるなど、各国が多面的機能の重要性を大いに認識するに至ったことが実感されたことを報告しておきたい。このことはアジアの経済成長が鈍化する中で、農業に対する施策の重要性を各国があらためて理解し、ひいてはその多面的機能の価値にもやや強い関心の眼を向けるようになったのではないかと、少なくとも日本側に座る筆者には思えたのである。

フィリピンへの旅は、フィリピン航空である。成田空港では大量の荷物を持ち帰る出稼ぎの人が多く、チェックインに時間がかかる。もちろん若い女性も多く、筆者はその女性たちの間に座席を占めて、ご満悦、と言いたいところだが現実には厳しい。隣人との会話を諦め、出稼ぎを主たる経済活動とするフィリピンの将来と、その国の農業の多面的機能とを考える旅となった。

以下の表は、プロジェクトで各国が扱っている多面的機能の主なものである。

国名	対象とした多面的機能	国名	対象とした多面的機能
ブルネイ	水田の保水、人口集中緩和、景観	ミャンマー	富栄養化防止、土壌流出防止、景観
カンボジア	洪水緩和、地域活性化	フィリピン	景観、洪水防止、食料安全保障
インドネシア	洪水防止、土壌流出防止、ゴミ浄化	タイ	環境保全、地域福祉、食品安全
ラオス	地域維持、洪水防止、土壌流出防止	ベトナム	所得の平等化、洪水防止、景観
マレーシア	気候緩和、文化的機能、地域維持	シンガポール	作業はないが、常に参加、発言多い